ここから先は暗い話をしないといけません。高知県の経済はとてつもない弱みも持っています。先程、森林面積の割合が多いと言いましたが、逆に言うと平野が少ないということです。だから物を作ろうとしても、作れる量に限界があるのが一つの弱み。もう一つ、大きい消費地に物を売ろうとしても、物流コストがかかること。同じ物を売るにしても、たくさんお金をかけて運ばないといけないことも高知県の弱みです。

最大の問題は、人口がどんどん減っていることです。日本全体で人口が減り始めたのは平成 17 年からで、高知県で減り始めたのは平成２年からです。全国に先駆けること 15 年前から人口が減り始めました。これは若い人たちが県外に出て行ったからではなく、生まれてくる赤ちゃんより亡くなる人が多くなる人口の自然減が起こり始めたからです。

高知県の高齢化率は 27%に達しています。これは全国に比べて 10 年先行している。逆に言うと、小さい子や若い人たちの数がものすごく減っているんです。私の２～３歳年下ぐらいまでの人口は多いのですが、そこから下は、人口がグッと減ってきています。私は高知市立鴨田小学校の出身ですが、当時、鴨田小学校は高知県内で一番大きい小学校でした。私が小学校５年生のときに神田小学校と二つに分かれて、なお生徒数が 2000 人いました。今も鴨田小学校は高知県の中で一番大きい小学校ですが、960 人しかいません。このように、若い人ほど人口が減っています。

これは二つの側面から経済に大きなインパクトを及ぼします。一つは、実際に物を生み出す 18 歳～65 歳の生産年齢人口が減っていくということは、物を作る人の数が減るので、作る物の数が減る。だから全体として経済の規模が小さくなる。物を買う側面から見ると、人がたくさんいれば、同じパンでもたくさんのパンを食べます。だけど人の数が減っているので、パンを食べる人の数が減っている。加えて高齢化が進んでいるから、１人当たりが食べるパンの数も減っている。だから、県内市場はどんどん小さくなっています。

高知県内の商品販売額は、平成９年が約２兆円。それが今、１兆 6000 億円と、約 20%の売上が減っています。これは不況だから減ったのではなく、人口が減って高齢化が進んだから経済が縮んだのです。これが高知県の経済がいつまで経っても豊かになれない、根本的な原因です。いずれ日本もこういう状況に襲われていきます。先ほど、高知県にはいろんな強みがあると言いました。だけど、高知県はものすごく大変な状況に陥っているのもまた確かなんです。